
Unify DataServer Releases 7.0 - 8.1 の 新機能と変更点

Release 8.1 の新機能と変更点

以下のテーブルは、Unify DataServer Release 8.1 で追加された機能と、その機能に関するマニュアル中の記載箇所を示したものです。Unify DataServer Release 7.0 から 8.0 を使用している場合は、これらの機能を使用することはできませんので、マニュアル中のこれらの記述については無視して下さい。

DataServer 8.1 のサポートするストアードプロシージャとトリガに関しては、特に変更はありません。

機能	マニュアル名	キーワード
2つの64ビット numeric データタイプ： HUGE INTEGER、CURRENCY をサポート	<i>Unify DataServer: Writing Interactive SQL/A Queries</i>	HUGE INTEGER CURRENCY
DataServer 7 は、内部的に DOUBLE (LAGRGE FLOAT タイプ) を使用しているために、長い桁の カラムを追加するときは 15 桁の有効桁以下で丸め 誤差が発生します。DataServer 8.1 では金額情報 が丸め誤差なしに使用可能となります。RPT を 使って多数のレコードからデータを集計するとき、 これは特に重要です。	<i>Unify DataServer: Embedded SQL/A</i> <i>Unify DataServer: SQL/A Reference</i> <i>Unify DataServer: RHLI Reference</i>	HUGE INTEGER CURRENCY HUGE INTEGER CURRENCY U_GAMT U_GINT

機能	マニュアル名	キーワード
<p>2GB を越えるデータベースボリュームをサポート</p> <p>ジャーナルファイル、及びバックアップボリュームは、Release 7.0 で既に 2GB を越えるラージファイルサイズをサポートしています。これにより必要な数のボリュームを直接ディスクドライブにマップすることが可能となり、非常に大きいデータベースの管理が大変簡単になります。</p>	<p><i>Unify DataServer: SQL/A Reference</i></p> <p><i>Unify DataServer: Writing Interactive SQL/A Queries</i></p> <p><i>Unify DataServer: RHLI Reference</i></p>	<p>CREATE VOLUME</p> <p>Creating a Volume</p> <p>DB_BIG</p>
<p>Unicode をサポート</p> <p>EU では、アプリケーションが加盟国の全てのキャラクタセットをサポート可能であることが要求されますが、それは Unicode の使用で実現可能となります。これにより、作成したデータベースが世界中の全ての言語でサポートできるようになります。DataServer のこれ以前のバージョンでは、データベースのヘッダに ロケールを格納しているのでドイツ語、あるいはフランス語というような 1 つの言語のみが使用可能です。</p>	<p><i>Unify DataServer: Configuration Variable and Utility Reference</i></p>	<p>DBCHARSET LANG</p>
<p>XML をサポート</p> <p>XML ファイルへの SELECT の出力、及び XML ファイルからの UPDATE が可能となりました。</p>	<p><i>Unify DataServer: SQL/A Reference</i></p> <p><i>Unify DataServer: RHLI Reference</i></p>	<p>AS XML</p> <p>XML xml_ptr</p>
<p>TRUNCATE TABLE が拡張され、リンクインデックスの親であるテーブルに関して TRUNCATE が許可されるようになりました。</p>	<p><i>Unify DataServer: SQL/A Reference</i></p> <p><i>Unify DataServer: RHLI Reference</i></p>	<p>TRUNCATE TABLE</p> <p>utrnctbl</p>
<p>DBIntegrator のアップグレード</p> <p>主な新機能は、Unify eWave Engine JDBC クライアント使用の際に必須となる JDBC 2.1 のサポートです。これによりマイクロソフトや、他の ODBC クライアントベンダーの最新の ODBC 機能が多数追加され、パフォーマンス改善が行われています。</p>	<p>ドキュメントなし</p>	

Release 7.2 の新機能と変更点

Release 7.2 の新機能の一部は、既存の Unify アプリケーションをグラフィック・アプリケーションの Web に移行したいという顧客からの要望によって拡張されたものです。そして、そのための 1 つのオプションが追加されました。また特定の new 機能も要求され、機能は拡張されました。

以下のテーブルは、Unify DataServer Release 7.2 で追加された機能と、その機能に関する Unify DataServer: Product Enhancements for Releases 7.1 and 7.2 マニュアル中の記載箇所を示したものです。Unify DataServer Release 7.0 から 7.1 を使用している場合は、これらの機能を使用することはできませんので、マニュアル中のこれらの記述については無視して下さい。

機能	マニュアル名	キーワード
既存のアプリケーションを GraphOn、Tarantella システム、Citrix により提供されるクライアントテクノロジーを使用した Web へ移行する。	<i>この新しいプラットフォームに対するドキュメントはありません。使用したい場合は、Unify コンサルティングに連絡して下さい。</i>	
TRUNCATE TABLE DML 文 テーブルとインデックスの定義は残したままテーブル内の全てのデータを素早く削除することが可能となりました。	<i>Unify DataServer: SQL/A Reference</i> <i>Unify DataServer: RHLI Reference</i>	TRUNCATE TABLE utrnctbl
データベースファイルのバックアップやリストアを実行するためにサードパーティのソフトウェアを利用できるようになりました。	<i>Unify DataServer: Configuration Variable and Utility Reference</i>	budb redb
SQL/A 文で != 演算子が利用可能です。	<i>Unify DataServer: SQL/A Reference</i>	!=

Release 7.1 の新機能

以下のテーブルは、Unify DataServer Release 7.1 で追加された機能と、その機能に関する Unify DataServer: Product Enhancements for Releases 7.1 and 7.2 マニュアル中の記載箇所を示したものです。Unify DataServer Release 7.0 を使用している場合は、これらの機能を使用することはできませんので、Unify DataServer: Product Enhancements for Releases 7.1 and 7.2 マニュアル中のこれらの記述については無視して下さい。

機能	マニュアル名	キーワード
BUCHECKSUM コンフィギュレーション変数 バックアップファイル、およびジャーナルファイル のチェックサム機能を有効または無効にするフラグ です。	<i>Unify DataServer: Configuration Variable and Utility Reference</i>	BUCHECKSUM
Shutdb の新オプション : -Ousr_wait=n and - Odmn_wait=n	<i>Unify DataServer: Configuration Variable and Utility Reference</i>	shutdb
2GB を越えるディスク上の通常ファイルに、バック アップを作成することが可能になりました。	<i>Unify DataServer: Configuration Variable and Utility Reference</i>	budb

Release 7.0 の新機能

以下のテーブルは、Unify DataServer Release 7.0 で追加された機能と、その機能に関するマニュアル中の記載箇所を示したものです。Unify DataServer Release 6 を使用している場合は、これらの機能を使用することはできませんので、マニュアル中のこれらの記述については無視して下さい。

機能	マニュアル名	キーワード
バックアップの確認をサポート – Unify DataServer で自動バックアップの管理が可能となりました。システムは、マニュアルでの確認なしで現在のバックアップファイルの情報を追跡します。	<i>Unify DataServer: Configuration Variable and Utility Reference</i>	budb
自動ジャーナリング - Unify DataServer は、バックアップ処理の管理に使用していた第 1、及び第 2 のジャーナルファイルの両方が作成可能になりました。自動システムでも、現在のジャーナル・ファイル番号とそのボリューム識別名を追跡することが可能です。	<i>Unify DataServer: Configuration Variable and Utility Reference</i>	JOURNAL budb

Release 7.0 の変更点

以下のテーブルは、Unify DataServer Release 7.0 で変更された機能と、その機能に関するマニュアル中の記載箇所を示したものです。Unify DataServer Release 6 を使用している場合は、これらの変更点を使用することはできませんので、マニュアル中の関連情報は、以前のマニュアルを参照して下さい。

機能	マニュアル名	見出し
SQL ALTER TABLE 文が機能拡張されました。 - 既存のテーブルのコンフィギュレーションの変更 - カラムの追加 - 既存のカラムの変更 - 既存のカラムのデータタイプの変更 - カラムへの NULL 値の受入れに対する許可 - 新規カラム、あるいは既存のカラムへのデフォルト値（NULL 値を含む）の設定 - テーブルを変更前に、その変更によりデータベースを破損する可能性についてチェックする	<i>Unify DataServer SQL/A: Reference</i>	ALTER TABLE
トランザクション ジャーナル管理の機能拡張	<i>Unify DataServer: Configuration Variable and Utility Reference</i>	LOGARCHIVE TXLOGFULL budb

関連情報

Unify DataServer アプリケーションの Y2K 対応に関する詳しい説明は、下記の WEB ページで「*Unify DataServer: 世紀末問題対応とアプリケーション*」白書を参照して下さい。

<http://www.unify.com/jp/support/dataserver/docs/dataserver.pdf>